

幸町1丁目の町づくり
あしたの町・らしづくり活動賞
応募レポート



幸町1丁目コミュニティ委員会

幸町1丁目の町づくりの活動

高齢化の町を、活力と魅力のある町へ

このレポートは幸町1丁目コミュニティ委員会の12年間（平成16年～27年）の活動をまとめ、「あしたのまち・くらしづくり活動賞」に応募したものです。（蟹江将生）

美浜区幸町1丁目地区は、東京湾を埋め立てて造成された住宅地で、約3、300戸、8、000人が暮らしている。マンション等の集合住宅が96%を占め、入居から40年以上がたった町の中心部では高齢化率が40%を超えた。

自治会の役員の任期は一年で、しかも順番で選ばれるためノウハウの蓄積が乏しい。しかし役員の中には活動に熱心な人もおり、そうした人を任期終了後に受け入れて、自治会を支える役割を果たしてきたのが幸町1丁目コミュニティ委員会である。

そのコミュニティ委員会は、平成16年の役員交代を機に「安心安全の町」「活力と魅力のある町」を目標に掲げ積極的に活動を行うようになった。

それから12年、町の美化にはじまり、高齢者支援、防災、防犯対策、住環境の改善、青少年育成、文化活動、イベントなど町のあらゆる分野で多くの成果を上げて来た。

1、一人の小学生の問いかけがきっかけになった町の美化活動

以前、親子でゴミを拾いながらボランティア活動を体験する「おはようボランティア」という夏休みの恒例行事がありました。平成16年の夏、参加した1人の小学生がタバコの吸い殻のあまりの多さに、「なんで大人はこんなところに捨てるんだろう」と親に問いかけたといいます。この話がコミュニティ委員会の会長に就任したばかりの私のところに伝わって来ました。即座に私は、子供に対して恥ずかしい。大人の責任で何とかしなければと思いました。実態を把握するためにバス停から駅近くの交差点までの500mに落ちているタバコの吸い殻を毎朝調べたところ、1日500本前後が捨てられている事がわかりました。半年間吸い殻を拾い続けながら考案したのが「火消し処=ひけしどころ」とネーミングした手づくりの容器です。有志5人が集まり、中学校の工作室を借りて作成し、平成17年3月にバス停や信号など7カ所に、ここでタバコの火を消して下さいと書いて設置をしました。最初はどの程度の効果があるか予想できませんでしたが、驚く事に設置して1週間で歩道に捨てられていたタバコの吸い殻は殆ど姿を消しました。一人の小学生の問いかけが、美しい町づくりへのきっかけになったのです。住民の良心を信じて訴えていけば結果は必ず出る。手ごたえを感じその後の活動に弾みがつきました。

しかし、早速千葉市の担当課からクレームが来ました。歩道は公道なので直ちに撤去

するようにとのこと。これに対し、ポイ捨て防止に効果があることを訴えたのですが規則だからだめだと言います。それではタバコのポイ捨てをなくす代わりに案を示すよう市に求めましたが回答はありません。このやり取りは当時の市長のところまで行き、市長の指示で職員が現地を調査した結果大きな効果がある事を認めました。以後撤去の話は無くなりました。現在町内の環境担当のメンバー25人がローテーションを組み、毎週日曜日と水曜日の朝吸い殻の回収と「火消し処」の掃除を行っています。この町を訪れた人が、こんなにきれいな町に住んでいる人はきっといい人が多いに違いない、と言ってマンションを買って転入してきたという話もありました。

「火消し処」の活動の効果で町内の歩道は綺麗になりましたが、対症的なのは京葉線千葉みなと駅周辺の歩道です。この区間はお隣の中央区ですが、町内の住民も通勤通学に利用しております。余りのひどさに見過ごすことができず、コミュニティ委員会のメンバーと朝風会を立ち上げました。毎週日曜日の朝の清掃活動で見違えるようになり、道行く人から感謝をされています。

2、安全で美しい公園の環境づくり

幸町公園のトイレは、以前は暗くて汚い、怖くて誰も利用しない最悪のトイレで、千葉市に改修をお願いして公園の入口に設置をしてもらった経緯があります。3年ほどかかりましたが新しいトイレができたことで住民は感激し、週2日の業者の清掃以外は毎日住民が自発的に掃除を行うようになりました。利用者の中でこんなにきれいなトイレは無いと評判になり、いつも利用している人が、お礼にとお茶菓子を持ってきたこともあります。

この公園にホームレスが10人ほど居ついた時があり、粘り強く話し合って退去してもらいましたが、安全面でいくつかの問題点が浮上しました。

そこで検討委員会を立ち上げ、半年間の調査検討を経て千葉市に改善の要望書を提出しました。全て市民目線の提案です。その結果要望に沿った公園の再整備が行われました。

工事が終了すると直ちに住民に呼び掛けて幸町公園友の会を結成し、月2回の公園清掃を実施。また公園内の安全点検、樹木の管理、花壇の整備を積極的に行ってきました。

こうした努力の結果、安心して憩える美しい公園として多くの住民が絶え間なく訪れるようになりました。

幸町公園では更に、現役世代のコミュニティ委員があじさいの名所づくりをしようとプロジェクトを立ち上げました。仕事を持つ若い世代が時間を生み出し、地域貢献に力を合わせて活動する様子は頼もしく町の希望です。将来が期待されています。

3、高齢者の生活を支える活動

①高齢者への生活支援

平成17年に行った福祉についての全住民に対するアンケートでは、日常生活における生活支援、例えばゴミ出し、電球の交換、買い物代行、医者への付き添いなどの支援を求める声が185件寄せられました。それが2年後の平成19年に行った同じ内容のアンケ

ートでは671件に増え、事態は深刻である事がわかりました。2年間でこれほど進行するとは予想もしていませんでした。そこで急遽準備会を開催し、半年間の検討を経て、平成20年4月に住民同志で助け合う「安心サポートの会」を立ち上げました。しかし事務所を置くだけの資金はありません。そこで7人の事務局員がローテーションを組み、携帯電話の持ち回りで受付と人の手配をする事にしました。結果的にこの方法がスタッフの負担を軽くし、チームワークの向上にもつながったのです。今年7年目に入りましたが、会員は年々増加し、現在利用者は180名、サポート会員は60名で、年間700件から900件の生活支援を行っています。利用者の方から、「施設に行こうと思いましたが、皆さんのおかげでまだこの町で頑張れそうです」との声が寄せられ、スタッフを感激させました。

②買い物困難者のために毎週金曜日に市を開催

15年ほど前にスーパーが撤退したあと町内では生活用品を売る店が無く、アンケートでは新鮮な野菜を近くで買いたいとの声が884件も寄せられました。こうした声に応えようと半年かけて千葉県下を駆け回り、農産物生産者団体と交渉した結果、農産物直売所の協力を得て平成24年5月より毎週金曜日、午前中の2時間マンションの敷地内で金曜ふれあい市を開設。新鮮な農産物のほか魚の干物や海産物、惣菜等も販売し大変喜ばれています。毎回の利用者は100人～130人ほどで昨年末には通算230回を数えました。持ち帰りが大変な人には、自宅までスタッフが届けるというサービスも行っています。

③居場所づくりにふれあいサロンを常設、高齢者の相談や生きがいづくりも

一方、町内には公民館や高齢者が利用出来る施設が無いと以前から居場所づくりを求める声が上がっていました。

平成26年末に、マンション1階のクリニックが閉院しテナントを募集しているとの情報があり、家主と交渉し借用する事になりました。市の補助を受けて平成27年11月に常設のふれあい交流館としてオープン。10時から16時を住民が憩えるふれあいサロンに、午後4時から6時を子どもが遊んだり勉強したりして過ごせる子供の居場所にしました。これらの運営には女性を中心に約90名がボランティアとして参加。オープンから1年で1万人の利用があり連日賑わっています。

そのほか行政の窓口や専門機関へ行きたくても行けない高齢者の為に、福祉と介護の相談会とミニ講演会をふれあい交流館で毎月定例開催をし、好評を博しています。

また小学校と連携して人材バンク「人生万歳」を立ち上げ、高齢者が小学生の学習支援をする活動を平成24年から行い、高齢者の大きな生きがいにもなっています。

4、防犯活動で犯罪被害が15%にまで減少

平成17年4月に2週間で車5台が盗まれる事件が起きました。町には頼みとする交番がありません。そこで自分たちの町は自分たちで守ろうと呼びかけて同年7月に77名でパトロール隊を結成。その後150人の隊員を擁するまでに発展。年間のパトロール回数

は466回に及んでいます。

地域として初めて保有した青パトと、徒歩による活動で、小学校の下校時、昼、夜、深夜の巡回と多彩な活動を展開しています。また、防犯設備士協会と連携し町全体の防犯診断を行い、防犯カメラの設置などハード面の改善も推進しました。犯罪被害の半数以上を占める自転車盗難防止のため1,000台近くの自転車に無料で補助錠を取りつけるツーロック運動も行いました。その結果、平成14年に138件あった犯罪被害は、平成28年は20件にまで減少。目指す犯罪ゼロにあと一步と迫っています。

5、いざという時の防災対策を推進

非常時のために平成25年度から白米100キロ（1,200食分）の備蓄を始めました。またライフラインが途絶した時にご飯を炊けるようにボイラーを購入し、改良、工夫を加え、更に常設の炊き出し委員会を20人で編成しました。ボイラー班、給食班、庶務班に分け、被災時にそれぞれの班で複数人が集まれば機能するようにしています。

防災訓練で実際に炊き出しを行ったところ1時間半で500食を炊くことができました。

避難所に必要なストーブと扇風機を町内自治会の機関紙で提供を呼びかけたところ、ストーブ16台、扇風機10台の寄贈がありました。これらの品はいつでも使用ができるように整備、点検をして倉庫に収納をしました。

こうして、備蓄から炊き出し、避難所の夏、冬季に備える事で住民が安心できるよう対策を進めております。

6、イベントの活性化

5名で始めた町づくりの活動が、12年で大きな広がりを見せ、400人を超える人が活動に参加するまでになりました。ここで紹介した活動は全て年間を通しての活動ですが、このほか盆踊り大会とフリーマーケット「いま市」などのイベントの活性化も図りました。

現在はいつ起きてもおかしくないと言われている直下地震への備えと後継者の育成が課題で、工夫と住民の協力を得ながら取り組んでいます。

幸町1丁目の施策別町づくり活動一覧

平成29年1月1日

活 動 内 容	活動開始（平成）	活動者数
高齢者の生活を支える活動		
（1）安心サポートによる生活支援の活動	22年4月1日	84人
（2）金曜ふれあい市の開催で買物支援	24年5月25日	11人
（3）ふれあいサロンで高齢者の居場所づくり	27年11月7日	60人
（4）高齢者の福祉と介護の定期相談会	27年11月	
（5）高齢者の生きがいがづくり「人生万歳」	24年9月	27人
子供の居場所づくり COCO	27年11月	15人
防犯活動		
（1）幸町1丁目防犯パトロール隊	17年7月17日	150人
（2）自転車盗難防止のためのツーロック運動	25年	
防災対策		
（1）食糧1,200食分の備蓄	25年12月	
（2）常設の炊き出し委員会設置	26年3月	25人
美しい町づくりの活動		
（1）はなの会による花の町づくり活動	5年4月26日	20人
（2）「火消し処」でタバコのポイ捨て防止	17年3月24日	25人
（3）朝風会による京葉線ちばみなと駅周辺の清掃活動	18年4月1日	15人
（4）幸町公園友の会による清掃と公園の管理	20年4月1日	46人
（5）幸町公園あじさいプロジェクトによる活動	27年12月	16人
（6）ガーデンギャラリーによる町の芸術家支援	17年1月1日	7人
		501人

幸町1丁目の町づくり活動の経過

平成29年1月1日

開始年月日（平成）	内 容
5年4月26日	はなの会設立、花の町づくり活動始まる
16年6月	町づくりの目標「安心安全の町」「活力と魅力のある町」を決める。
17年1月 1日	ガーデンギャラリーを設置。
3月24日	火消し処を設置し、タバコのポイ捨て防止運動開始。
7月17日	幸町1丁目防犯パトロール隊発足。
18年4月 1日	朝風会発足。京葉線千葉みなと駅周辺の清掃活動開始。
20年4月 1日	幸町公園友の会発足。公園の清掃管理に乗り出す。
22年4月 1日	安心サポートの会発足。高齢者の生活支援を開始。
23年	AED, 救急救命講習実施（年2回）
24年5月25日	金曜ふれあい市開設。高齢者の買物支援を開始。
24年9月	高齢者の生きがい対策「人生万歳」スタート。
25年	自転車のツーロック運動開始。約千台に2つ目のカギを施錠。
25年12月	非常時に備えて1,200食分の白米備蓄開始。（約100キロ）
26年3月	災害時に対応できる常設の炊き出し委員会を設置。
27年11月7日	高齢者の居場所「ふれあいサロン」を常設。
11月	高齢者の介護と福祉の相談会開催。
11月	子供の居場所づくり（子供のコミュニティCoco）開設。
27年12月	現役委員の地域貢献活動、幸町公園あじさいプロジェクト発足。